

西光寺だより

第二三一号 令和三年 七月一日発行

梅雨の雨が過ぎ、暑い日差し季節となりました。

わが国においては、2020年1月に最初の新型コロナウイルス感染者が確認され、マスクをしながらの生活も1年半という月日が経ちました。これからますますマスクがつけづらくなる季節を迎えようとしています。

これからも感染予防を行いながら同時に、水分補給などの予防にも気を付けて過ごしたいものであります。

この時期に咲く朝顔は小学1年生がはじめて育てる植物で、学校から持ち帰ったと思われる可愛いプランターにつるをまきつけた朝顔を庭先で見かけるたびに夏休みだなと感じることであります。子供のころ、朝顔を昼になると花を閉じる様子や花色を水に絞り出すとなんともきれいな水が出来あがるのが不思議でたまらなかつたことを思い出します。

そんな風に今では夏の風物詩ともなった朝顔ですが、昔中国では、朝顔の種が薬として非常に高価であったそうです。

日本には奈良時代の遣唐使によって中国から伝来したといわれています。和名を「阿佐加保」と書き、のちに朝に咲くことから「朝顔」といわれるようになったそうです。

先月号にも紹介した紫陽花の同様、朝顔も時間によって花色が変わるようで、朝咲いた時と夕方見る時では、実は色が違っていているそうです。これは、水素イオン濃度の量が変わることによって、赤や紫、青に変化するのだとか。

自然が作り出す美しい変化ですね。

私たちも、まったく同じ時間、まったく同じ一日を過ごすことができない変化の日々を過ごしています。その変化の中に私たちがいのち恵まれ生きています。自然の中の変化から日々の感謝を味わえる、そんなひと時でありました。



●今月のことば●

自利利他

今は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、皆マスクをしながらの生活をしています。食事をする時以外ほとんどの場面でマスクをしている。

本当に疲れることであります。精神的にも、もちろん呼吸がしづらくなるという肉体面においても、けれどしなくてはいけない、もちろんここまでマスク着用が定着しているのでしないと変な目で見られるという不安もあります。

先日、ラジオでこんなお話を聞いたことであります。

「窮屈だけれど、ここまで皆マスクをするのは、自分もちろんだが他人にうつしてはならないという思いがあるからこそ、このマスク着用が苦にならなくできるのである。他人のためだから、誰かのためだから毎日マスク生活ができるのであります。自分のためだけだったら、ここまで我慢できないと思う。まさしく自利ではなく、利他という考え方なのかもしれない。」

マスクは自分のためでもあるが、他人のためでもある。

他人のためだから我慢できるのである。

だから我慢しながらマスク生活ができる。誰かのためがなかったらマスク生活を続けることはできない。

その言葉を聞きながら仏教用語の「自利利他」の教えにふれたことでありました。それは、他人の幸せ・他人の利益のために修行し努力することが、自らの利益になるということ。

「自利利他」の考えを実践すれば、感染拡大防止のために万全の策を尽くす方を増やすことができます。

それにより、自分も感染しない、人にもうつさないという、重要な感染拡大対策に貢献することができます。

感染防止はひとり一人の考えや行動で大きく貢献できます。

今一度、感染拡大防止について何ができて、どうすればよいのか考えたいものであります。

そして、忘れてはいけない事。

それは自分にとって相手は他人になりますが、そんなあなたもだれかにとつては大切な他人であること。

北御堂『読む法話』の中に、灰谷健次郎さんの、『ひとりぼっちの動物園』という本の中の詩が紹介されていました。

あなたの知らないところに
いろいろな人生がある
あなたの人生が
かけがえないように
あなたの知らない人生も
またかけがえない
人を愛するということは
知らない人生を知ることだ

誰でも自分の人生は、何よりも大切でかけがえない、とは言いますが、同じかけがえない、いのちを私だけでなく、みんなそれぞれに生きている。お互いを大切にする自利利他の教えにふれた時間でありました。

合掌



◆七・八月の行事◆

・八月 十五日 (日)

孟蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂

※なお、その時のコロナ禍の影響を見ながら、

マスク着用のもと、換気を行いながらの予定であります。

どうぞご自由にお参りください。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>